



ひよこだより



都立葛飾ろう学校 乳幼児教育相談
令和5年6月1日 NO. 3

みんなと「同じ」って？

アジサイの花が少しずつ色づき始め、梅雨の気配を感じる季節となりました。雨の日は、大人にとっては何かとうとうしいことも多いものですが、子供にとっては全てが体験で遊びにつながるものばかりです。水溜まりが大きくなったり、乾いて無くなったり、カタツムリ等の虫を探したり、この時期ならではの発見を親子で楽しんでくださいね。



さて、乳幼児教育相談では、保護者支援の1つとして関連機関への訪問を行っています。訪問することが多いのは、難聴の子供たちが在籍する保育園や幼稚園です。一日の長い時間を過ごす園の先生方に、聴覚障害について理解を深めていただき、その子供に合った配慮や支援の協力をお願いしています。昨年度は教員2人で15ヵ所の保育園・幼稚園・療育施設に訪問させていただきました。園の規模や保育環境、先生方の体制、これまでに支援が必要な子供たちを受け入れてきた経験があるか等、状況はさまざまです。聴覚障害についての理解の仕方も、考え方もそれぞれです。そうした先生方とのお話から、私もいろいろなことを考え、学ばせてもらう機会をいただきました。その中から、聞こえない・聞こえにくいことをどのように考え、聞こえる人が大多数を占める集団の中でどのような支援を求めていくか（または、支援をしていくか）のヒントとなるエピソードをご紹介します。

やさしい気遣い

A君は軽度難聴の3歳児（年少）です。補聴器を使い始め、保育園でも装用するようになった頃、訪問に伺いました。子供たちがお昼寝をしている間に、情報交換の時間をいただき、先生方とお話をしました。とても細やかに子供たちの様子を把握し、対応してくださる担任の先生でした。その先生が日々の保育で心がけていることとして、「A君の補聴器のことは、子供たちの前では話題にしないようにしている」というお話をしてくださいました。「なるべく他のお子さんと同じように、特別な目で見られないように」という配慮からでした。確かに、保育の時の様子を見ても、難聴に配慮した関わりはほとんどありませんでした。

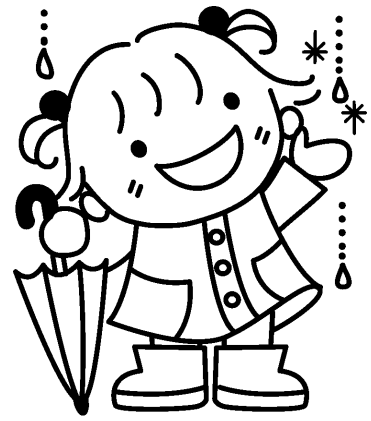
0歳から補聴器をつけることの多い中等度・重度難聴の子供と違い、補聴器をつける必要があるかどうかを3才まで経過観察をしていた軽度難聴のA君だったからこそ、保育園の先生は、先ほどのように考えられたのかもしれないと思いました。



ついこの間まで、他の子供と何も変わらず過ごしていたA君が、ある日突然、軽度難聴があるので補聴器をつけることになり、先生も戸惑いがあったのでしょうか。「ダンスも好きだし、歌も楽しそうに歌っているし、聞こえにくさがあるようには見られないのに、補聴器をつけることになってしまったなんて。」と思われていたのかもしれない。だからこれまでと変わらない対応をすることで、A君を他の子供と同じ存在として考えているという気遣いを示してくださっていたのだなと思いました。

聴者の価値観

「A君が特別な子にならないように」と、良かれと思つての担任の先生の考え方は、一見すると、とても配慮があるようにも受け取れます。でも、その考え方の根底には、「聞こえにくいことや補聴器のことは、言わない方がよいこと」という、聞こえる人の価値観があるように思いました。例えば、視力に何かしらの見えにくさがあつて眼鏡を付けている子供に対して、「眼鏡のことは他の子供たちに言わないようにしよう」と思うのでしょうか。また、背の低い子供が、背の高い子供の後ろにいた時に、その場所では前が見えにくいから座る位置を変わってあげてと伝えることは、背の低い子供を「特別な子」にするのでしょうか。きっとA君の担任の先生も、眼鏡のことを話題にすることに大きな抵抗はないでしょうし、集団で活動する時に、前が見やすいように子供たちの位置を変えることは、いつもされていることと思います。聴力の程度も、視力の程度も、身長の高さも、その子供の身体的特徴の1つですが、受け止められ方が違うのはなぜでしょう。



それは、難聴のことや補聴器のことがよく知られていないということと、A君が軽度難聴であるために、難聴があるようには見えにくいということの2つが、大きな理由として考えられるのではないかと思います。難聴についてよく理解していただければ、補聴器の大切さも納得でき、日常生活の中でわかりにくいA君の困り感に気づき、必要な配慮もしやすくなります。

集団生活の中でどの子供も「同じ」にしてあげたいのは、そこにある情報がしっかりと理解できるように得られることと、その上でその子供の気持ちが存分に表現できたり、力が十分に発揮されたりすることです。そのために必要な手立ては、子供によって違って構わないのです。手立てが異なることは、かわいそうなことでもなければ、不公平とか特別扱いということでもありません。難聴のある子供は、近くから視線を合わせて話してもらったり、手話を含め様々な視覚的な情報を示してもらったり等の配慮があることで、初めて聞こえる子供と同等な情報を得ることができ、活動に参加することができます。難聴があるということが、A君の全てではありませんが、それを抜いては考えることのできない大切な要素の一つです。このように子供の特性に応じて必要な配慮をすることを、「合理的配慮」と言います。難聴のことを園の先生方や友達にも広く知ってもらい、必要な合理的配慮についてオープンに話題にでき、求められる雰囲気があること、そしてその中で、わかる経験や自分の気持ちが伝わる経験を積み重ねていくことが、A君が自分の聞こえを肯定的に受け止めて成長していくための土台となります。

子供がまだ幼いうちは、保護者の方が中心となつて、我が子の聞こえについて話をし、理解と必要な支援が得られるように周囲に働きかけることが必要です。そして、その姿を子供にも見せていくこと、成長に合わせて本人からも話をさせていくことが、将来の子供の自立を助けることにつながります。



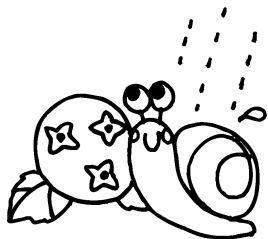
自分の大好きな色の補聴器を付け始めた時、A君は「かっこいいでしょ」と保育園の先生たちに補聴器を見せて回ったそうです。保護者の方が「かっこいいね」とほめて、補聴器をつけるA君の気持ちを前向きに盛り上げる関わりをしてきていたからでしょう。自分のことを語る第一歩をA君はもう踏み出しているなと感じました。

「合理的配慮」というと難しく聞こえますが、大切なのは、聞こえる人の価値観だけで考えるのではなく、聞こえない人の視点から、支援の在り方を考えていく姿勢だと感じた出来事でした。(担当：松澤)

学習会と行事のご案内

保護者教室

- ★日 時 6月9日(金) 10時～12時
- ★場 所 視聴覚室
- ★対 象 乳幼児教育相談、幼稚部保護者
- ★講 師 木島照夫先生(元ろう学校教員)
- ★内 容 「ことば絵辞典①」



- ★日 時 6月13日(火) 10時～12時
- ★場 所 視聴覚室
- ★対 象 乳幼児教育相談保護者
- ★講 師 伊藤敬子さん(聴覚障害児を育てた保護者)
- ★内 容 「聴覚障害児を育てた先輩ママのお話を聞く会」

基礎講座

- ★日 時 6月30日(金) 13時半～15時半
- ★場 所 視聴覚室
- ★対 象 乳幼児教育相談保護者
- ★内 容 「言葉をそだてる」
- ★担 当 菅原 仙子

手話学習会

1 講師 佐沢静枝先生

①入門手話

- ★日 時 6月5日(月) 10時～12時
- ★対 象 乳幼児教育相談・幼稚部保護者
- ★場 所 集会室

※この日は佐沢先生のご都合により那須映里先生が講師になります。

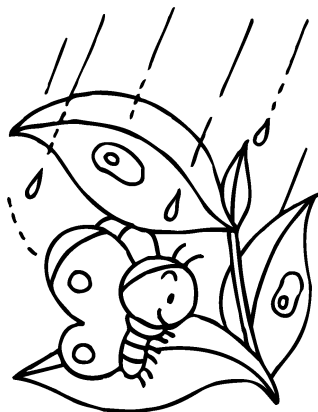
②初級手話

- ★日 時 6月12日(月) 10時～12時
- ★対 象 乳幼児教育相談・幼稚部保護者
- ★場 所 集会室

2 講師 石川絵理先生

- ★日 時 6月20日(火) 10時～11時 入門
11時～12時 初級

- ★対 象 乳幼児教育相談・幼稚部保護者
- ★場 所 視聴覚室



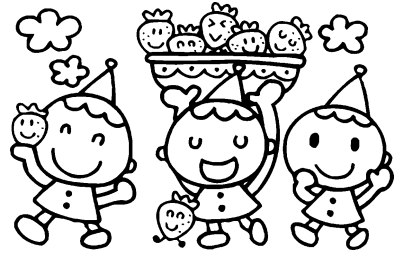
ママの育児記録より

★Aちゃん(2歳8カ月時の記録)



いちご狩り。父方、母方、両方のじいじ、ばあば達と一緒にいちご狩りへ群馬県藤岡市に行きました。初めは一緒にいちごを摘んでみたけれど、それよりも歩きたい気持ちが強くて、ベビーカーを降りて、じいじばあば達の手を引いて歩いていた。後半に、歩き疲れたタイミングでいちごをあげたら、いちごを食べた。赤いいちごと白いいちごもあったので、「これは赤、これは白」と説明しながら、一緒に赤と白で遊んだ。体験ノートを作って振り返りたい。

歩ける距離が伸びてきて、とにかく歩くことが楽しいAちゃんに、家族みんなが付き合ってくれていますね。Aちゃんが興味をもてるタイミングをよく見て、ママはいちごを再び見せてくれました。たくさん歩いたほどよい疲れと、ママの関わるタイミングの良さで、いちごを食べることもできましたね。Aちゃんのママの体験ノートは、スケッチブックの見開きに体験していたことの写真が大きく貼られ、その上には関係のある手話のイラストが親子手話辞典より拡大コピーして貼ってあります。Aちゃんに見やすい大きさと、手話と結び付ける工夫がよく考えられています。体験をただで終わらせず、振り返るきっかけ(体験ノート)を作ってあげることで、帰宅後にも会話することができ、言葉や手話の理解も深めていける関わりがいいですね。



～熱中症に気を付けましょう～

梅雨入り前にも関わらず、真夏日を記録する暑い日があったり、肌寒い日があったり、気温の変化に体がついていけずに体調を崩す子供が増えています。急に暑くなるような日には、熱中症に気を付けましょう。毎年のように、車の車内に残されて熱中症により亡くなる子供のニュースを聞くと、本当に胸が痛みます。

子供は体が小さく、気温の変化の影響を受けやすいので、熱しやすく冷めやすいという体格上の特徴があります。また汗をかく能力が未発達のため、皮膚の血流量を増加させて、体の表面から熱を逃がすことで体温を調節しています。しかし、気温が皮膚温よりも高い場合や、地面からの照り返しなどの輻射熱が大きな場所では、皮膚から熱を逃がすことが難しくなり、熱しやすい子供の体は深部体温が大きく上昇し、熱中症のリスクが大人よりも高くなります。熱中症は予防できるものです。次のような対策をこころがけて、元気に暑い時期を乗り切りましょう。

【熱中症の対策】

1. 水分を多めにとらせよう
2. 熱や日差しから守ろう
3. 地面の熱に気をつけよう
4. 暑い環境に置き去りにしないようにしよう
5. 室内あそびも油断しないようにしよう
6. 周りの大人が気かけよう

